

# 小学校分科会

## 第1分科会 小学校授業実演

### コミュニケーションの楽しさを味わい、自ら求めて学ぶ児童の育成

授業者：大津市立晴嵐小学校 平山 美穂

ALT Dipti Shadadpuri

助言者：滋賀大学

大嶋 秀樹

#### 研究テーマの設定の理由

小学校外国語活動では、体験を通して外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことや、積極的にコミュニケーションを図ることを意識して指導を行ってきた。児童は簡単な質問をしたり答えたりして伝え合う活動に取り組み、外国語でのコミュニケーションの楽しさに気付いている。しかし、児童が聞いたり話したりできる語彙や英語表現が乏しいことや定着に課題が見られることから、自分の考えや気持ちをくわしく伝えたり、質問をしたりするほどには至っていない。

そのようななか、平成29年3月告示の新小学校学習指導要領においては、小・中・高等学校を通じた外国語教育改革の一環として、小学校でも中学年に外国語活動、高学年に教科としての外国語が導入されることになった。高学年外国語科では「素地」の上の段階としての「基礎」を養うこととされ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能の習得を目指す。つまり、相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができる児童の育成が求められているのである。そして、そのようなコミュニケーション能力の育成は、児童が外国語を主体的に学ぼうとする原動力になると思われる。

そこで本研究では、テーマとして、児童同士の活発な英語によるコミュニケーションを促す工夫を追究し、コミュニケーションの楽しさを味わい、自ら求めて学ぶ児童の育成を掲げた。

## 第2分科会

### 児童の聞きたい、伝えたい思いを大切にし、主体的に コミュニケーションを図る授業の創造

発表者：東近江市立布引小学校 今井 沙織

東近江市立能登川東小学校 前川 裕美

助言者：東京外国語大学大学院 高島 英幸

#### 研究の目的

東近江市は1市6町が合併し、9中学校区22小学校で教育を行っている。外国語教育開始時期や地域性、外国語学習環境の違いはあるが、育てたい児童像は同一である。児童の発達段階を鑑み、外国語学習環境のあり方、児童の学習動機を高め、持続させ、思考を促す「課題解決型の言語活動」の在り方・方策を探る。

外国語活動、外国語科においては、外国語を聞いたり話したりするコミュニケーション能力の育成と外国語使用の必然性を感じさせ学習動機を高め、かつ興味や意欲を持続させる学習環境を整えることが必須である。本分科会では、次期学習指導要領の求める、ア「生きて働く『知識・技能』の習得」、イ「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」、ウ「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」の資質・能力の育成が可能となるための授業創造を試みる。

## 第3分科会

### 小学校英語における「書くこと」の活動による言語体験

発表者：長浜市立神照小学校 桐畑 米子

助言者：滋賀県教育委員会事務局 山本 祐司

#### 研究の目的

2020年(平成32年)から全面実施される新指導要領では、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入される。現行の指導要領で行われている「聞くこと」「話すこと」を中心に英語に慣れる外国語活動が中学年で行われ、高学年では「聞くこと」「話すこと」に加えて、文字を「読むこと」「書くこと」も学習することとなった。

長浜市では、平成16年度より教育課程特例校の指定により、小学校1年生から市独自のカリキュラムで英語の学習を進めてきた。そのカリキュラム中で手紙を書いたり、オリジナルの絵本を作ったりする「書くこと」の活動も含まれていた。しかしながら、なかなか系統的・継続的に「書くこと」の指導ができず、そのため、子どもたちの「書くこと」への抵抗が大きいと感じることが多かった。

長浜市は、移行期間である今年度から新学習指導要領を全面实施し、新教材『We Can』を使って「書くこと」の活動を取り入れている。新学習指導要領・新教材のもと、楽しく「書くこと」の活動に取り組むことができれば、楽しく主体的に英語の学習に取り組む児童が育つであろうと考え、実践を行っている。

## 第17分科会

### 小学校における外国語活動の歩み

発表者：栗東市立治田西小学校 五藤 章

助言者：京都教育大学 泉 恵美子

#### 研究の目的

これからの時代に求められている外国語活動で付けたい力、及び、平成32年度から施行される新学習指導要領に記載されている内容を明確にした上で、平成32年度以降を見据え、移行期間をスムーズに迎えるために、今年度その礎となる中学年での具体的支援を鑑みた授業を考える。そして、児童が何を考え、どのようなことができるようになるかを、授業の中の児童の様子からつぶさに拾い集め、外国語活動によって成長できる姿を検討する。また、外国語活動を通して学校生活全般がより明るく楽しくなる効果の具体的な展開を模索して創造する。このように外国語活動による児童の変貌を捉え、そこでこだわった内容を明確にすることで、今後外国語活動を手掛ける教師の不安解消や意識向上に繋げる。

## 第18分科会

### 相手意識をもって、進んでコミュニケーションを 図ろうとする子の育成

発表者：甲賀市立信楽小学校 波多野 絢子

助言者：愛知教育大学 高橋 美由紀

#### 研究の目的

多くの子どもたちは外国語活動の時間を楽しみにしており、生き生きと活動しているように見受けられる。子どもたちに聞いてみると、「外国のことを知ることができる。」「ゲームができる。」「友だちのことを知ることができる。」などの感想があった。子どもたちは、外国語活動を通して、世界や友だちのことを知ることに関心を感じていることが窺える。一方で「ゲームが楽しい。」という感想も多い。最近、外国語を学習塾等で習う児童が増えてきたためか、「簡単すぎて面白くない。」「もう知っている。」などの声を聞くこともある。既に英語表現を知っている子も初めて学んで十分その表現を使えない子も、どちらもが意欲的に進んでコミュニケーションを図るには、「自分の思いを伝えたい。」「友だちにはこれを尋ねたい。」「友だちの言葉を理解できてうれしい。」「もっと外国語で聞いてみたい。」という気持ちが高まる課題を設定することが不可欠であると考えた。

そこで、本研究では子どもたちが「やってみよう。」「伝え合いたい。」「という思いがもてる言語活動を仕組み、言語を通してコミュニケーションを図ることの楽しさに気づかせ、子どもたちが自ら外国語を用いて進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることを目的とする。

## 第19分科会

### Let's Enjoy English! ～子どもの思考がかきたてられる授業づくり～

発表者：彦根市立佐和山小学校 林 知代 桐畑 真由子

助言者：大阪成蹊大学 赤沢 真世

#### 研究の目的

平成28年度より、滋賀県小中高系統的英語教育推進事業の指定を受け、担任、専科教員、ALTが連携しながら、英語科の授業を進めている。また、英語科を窓口にした校内研究が今年度3年目を迎え、日々試行錯誤しながら、教職員が丸々となり授業の在り方を研究している。

本校では、積極的に新しい表現を学ぼうとしたり、学習した表現や知識を組み合わせたりしながら、自分の思いや考えを伝えようとする児童の育成を目指している。授業づくりで大切にしてきたのは、「～したい」という児童の思いを引き出すこと、そして児童の思考をアクティブにすることである。児童の「～したい」という思いは、児童の学びに向かう意欲を支えるものとなる。「～したい」という思いをもった時、その思考は活性化し、「これは英語では何て言うのかな?」「英語で言ってみよう。」と考えながら、児童は活動により意欲的に取り組むことができると考える。そこで、子どもの「～したい」という思いを引き出し、その思

考を活性化させるために、授業づくりにおいて、どのような活動内容を仕組んだり、発問や環境を工夫したりしていくとよいかと  
考え、実践を進めることにした。

## 第20分科会

### 小・中の深い連携と滑らかな接続を目指して

発表者:大津市立堅田中学校 押 田 英 貴

助言者:滋賀県教育委員会事務局 山 本 祐 司

#### 研究の目的

平成24年度滋賀県 小・中連携研究推進事業として、大津市立堅田小学校における専科指導(小学校外国語活動)を通して  
経験したことを基に、その後の大津市立堅田中学校での授業改善につなげる